

## 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議（第2回） 会議録

- 日 時：平成29年11月8日（水）10時00分～11時30分
- 場 所：岩手県公会堂 21号室
- 出席者：阿部 徹 委員、伊藤晃二 委員、金田一文紀 委員、佐々木秀市 委員、高橋清之 委員、田代高章 委員、土川 敦 委員、渡辺正和 委員（50音順）  
県教育委員会事務局 教育次長 岩井 昭  
（学校教育課） 首席指導主事兼総括課長 中島 新  
（学校調整課） 総括課長 小久保智史  
（学校教育課） 首席指導主事兼高校教育課長 佐藤 有  
（学校調整課） 高校改革課長 藤澤良志  
（学校教育課） 主任指導主事 中村智和、亀山 丈、上野光久  
（学校調整課） 主任指導主事 村山薫美  
主 査 梅澤貴次  
指導主事 市丸成彦

- 傍聴者：報道4人

### ○ 会議の概要

#### 1 開会 〈進行：田代高章 委員長〉

- ・ 本会議は委員11名中、8名の出席をいただいている。
- ・ 第1回の検討会議で決定したように、本日の検討会議も公開で行う。

#### 2 あいさつ 〈岩井 昭 教育次長〉

- ・ 本日はお忙しい中、第2回県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議に御出席いただき、感謝申し上げます。委員の皆様方には、日頃より本県の教育行政の推進に当たり、特別の御理解と御支援をいただいていることに、厚く御礼申し上げます。
- ・ 6月の第1回の検討会議では、県立高等学校の現状や、入学者選抜及び通学区域の状況等を説明した上で、県外からの入学志願者の受入れのあり方及び通学区域のあり方を検討する際の論点について、委員の皆様から多くの御意見をいただいた。
- ・ 検討の論点については、第1回検討会議において委員の皆様から概ね御了承いただいたので、論点に基づき、7月から9月にかけて市町村教育委員会やPTA団体との意見交換を行ってきた。併せて、中学校長及び高等学校長、中学校と高等学校のPTA会長に対するアンケート調査も実施した。
- ・ 意見交換及びアンケート調査の結果については、この後、議題3（1）で説明する。本日の会議ではこれらの結果を踏まえ、県外からの志願者の受入れと通学区域のあり方の2つのテーマのうち県外からの志願者の受入れについて御協議いただきたい。
- ・ 生徒の多様な受入れのあり方の方向性のとりまとめに向け、委員の皆様から忌憚のない御意見を賜り、活発な議論となるようお願いしたい。

### 3 議題

#### （1） 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケートの結果について

（次頁へ続く）

〈田代高章 委員長〉

- ・ 県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケートの結果について、事務局から説明の後、質問や意見等を伺う。また、第1回検討会議で各委員から指摘いただいたことについても、資料の中で説明をお願いする。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

【資料No. 1「平成29年度県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート」、参考資料 No. 1「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する市町村教育委員会との意見交換実施結果」、参考資料 No. 2「県外からの生徒の受入れを特別に認めている高校の入学者の状況（葛巻高校、水沢農業高校、種市高校）」、参考資料 No. 3「県内中学生の県外高校への入学状況及び県内公立・私立高校への県外からの入学状況」、参考資料 No. 4「部の設置状況」、参考資料 No. 5「県外生徒の受入れ（全国募集）に関する全国の状況」について説明】

〈田代高章 委員長〉

- ・ アンケート結果のうち、今回は「県外からの志願者の受入れ」について質問・意見をお願いする。
- ・ 参考資料 No. 2「県外からの生徒の受入れを特別に認めている高校の入学者の状況」における種市高校海洋開発科の「県外のその他」の欄の平成27年度4人、平成28年度3人、平成29年度1人は、青森県以外の人数なのか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 「県外のその他」の欄の人数については、全国及び青森県の隣接協定地域以外の生徒であり、北海道や神奈川県等の生徒もいる。

〈田代高章 委員長〉

- ・ 参考資料 No. 3「県内中学生の県外高校への入学状況及び県内公立・私立高校への県外からの入学状況」における県内中学生の県外高校への入学状況について、進学先に傾向は認められるか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 特定の高校に集中しているというわけではない。なお、平成29年度は合計95校に進学しており、少人数ずつ分散している。都道府県別では、近隣の宮城県、秋田県、山形県が多い。また関東や関西の高校に進学する生徒もあり、進学先の学校名を見ると運動部の強豪校や大学進学実績の高い学校も含まれている。なお、県外高校への進学においては、保護者の転勤等、家庭の事情等によるケースも含まれているものと思われる。

〈田代高章 委員長〉

- ・ この県内中学校というのは、国立の中学校は除いているのか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 国立の中学校も含まれている。

〈田代高章 委員長〉

- ・ 運動部や大学進学以外の目的で、本県でいえば種市高校の海洋開発科や葛巻高校の山村留学のような特色ある教育活動により、全国募集している県外の高校へ進学した生徒はどの程度の割合としているのか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 第1回検討会議でも紹介した隠岐島前高校へは平成27年度から29年度の3年間で本県から2人進学している。音楽等で特色ある学校にも進学しているが、割合については把握していない。

〈金田一文紀 委員〉

- ・ 参考資料 No. 5「県外生徒の受入れ（全国募集）に関する全国の状況」の3（2）の項目「県立高校の全学科で、募集定員の一定割合を受け入れ可能とする」について、秋田県の前期選抜試験では、学校や学科を指定せずすべての学科で5%を上限として全国募集しているということか。

（次頁へ続く）

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ そのとおりである。

〈金田一文紀 委員〉

- ・ 他にも秋田県と同様の取扱いをしている都道府県はあるのか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ アンケートの回答においては見当たらない。

〈高橋清之 委員〉

- ・ 全国募集のPR（案内）として、どのような方法をとっているのか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 葛巻町ではホームページで山村留学生を募集している。

〈田代高章 委員長〉

- ・ 隠岐島前高校等、マスコミが取り上げる知名度のある学校については、全国から生徒が集まってくると思われる。しかし、全国募集をしている多くの高校の募集内容については、中学生や保護者が個別に情報収集することとなる。本県が県外から生徒を受け入れることとなった場合にはどのような条件で、それをどう発信していくかということも検討が必要となる。

〈岩井 昭 教育次長〉

- ・ 全国募集を行う場合、PRの方法は課題である。他県においては、東京都等で説明会を開催している事例もある。
- ・ 種市高校については、今回、日本潜水協会など5団体と連携協定を結んだことから、そのネットワークを活用して周知していくことも可能であり、ひとつのモデルケースになると考えている。

〈伊藤晃二 委員〉

- ・ 参考資料 No. 5「県外生徒の受入れ（全国募集）に関する全国の状況」の1の項目「全国募集を実施している高校がある都道府県」について、全国募集を実施しているのは岩手県を含めて27道県あるが、東北では青森県、宮城県については全国募集をしていない。青森県や宮城県で全国募集を行っていない特別な理由はあるのか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 全国募集をしていない理由については、今回は調査していないが、県内生徒の進路を優先しているものと推察される。

〈伊藤晃二 委員〉

- ・ 全国募集をしていない青森県や宮城県において、特徴的な取組の事例があれば教えてほしい。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 今後、情報収集していきたい。

〈渡辺正和 委員〉

- ・ 参考資料 No. 5「県外生徒の受入れ（全国募集）に関する全国の状況」の3（2）の項目「県立高校の全学科で、募集定員の一定割合を受け入れ可能とする」について、秋田県の前期選抜試験の募集定員5%の枠がどれだけ充足されているか確認できる資料はあるか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 5%の枠の充足に関するデータはないが、秋田県における前期選抜試験全体の倍率は1.00倍で昨年も1.01倍となっていることから、一定の成果はあると推測できる。

〈阿部 徹 委員〉

- ・ 資料 No. 1「平成29年度県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート」の質問3「県外からの志願を認める場合、心配されることとしてどのようなことが考えられますか。」については、県外からの志願を認める場合の県外から来る生徒に対して心配されることを尋ねているが、県内の受検生への影響等について心配されることを表示しているデータ等は

（次頁へ続く）

ないか。資料 No. 2「県外からの志願者の受入れのあり方について」の3「今後の方向性」の(1)の項目「県外からの志願者の受入れの効果や課題として、どのようなことが考えられるか」において、考えられる課題として県内の生徒の学ぶ機会を失う可能性について挙げているが、それ以外にも心配されることがあるのではないか。受入れの条件だけでなく、受け入れる場合の影響についても十分に検討した上で、どのように受け入れるかを検討したほうがよいのではないか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ アンケートのその他の自由記述の回答の中に、県内受検生への一定の配慮についての意見があった。そのようなことを踏まえて、次の議題(2)「県外からの志願者の受入れのあり方について」において意見交換をお願いしたい。

〈田代高章 委員長〉

- ・ 参考資料 No. 1「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する市町村教育委員会との意見交換実施結果」の結果の中にもそのような意見があるので、それらを含めてどのような条件が望ましいのか、さらに具体的に検討したい。
- ・ アンケートや資料に関しての質問や意見は以上とする。

## (2) 県外からの志願者の受入れのあり方について

〈田代高章 委員長〉

- ・ 資料について事務局から説明をお願いする。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

【資料 No. 2「県外からの志願者の受入れのあり方について」に基づき、県内の生徒の学ぶ機会の確保、地域の将来を担う人材の確保、今後の方向性について説明】

〈田代高章 委員長〉

- ・ 意見交換に入る。質問・意見があれば発言をお願いする。

〈佐々木秀市 委員〉

- ・ 全国募集しているものの、志願者がいない学校の学科内容や募集方法等を分析すると、検討を進める上で参考になるのではないか。

〈田代高章 委員長〉

- ・ 全国募集をしているものの、募集定員を満たしていないことについて、事務局としてはどのように考えているか。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 全国調査の回答の中では、全国募集の主な課題として、PR方法や居住場所の確保等の環境整備等が挙げられており、その点が影響し、応募が少ないといったことは考えられる。

〈田代高章 委員長〉

- ・ 募集条件における何らかの兼ね合いもあるだろう。

〈渡辺正和 委員〉

- ・ 佐々木委員の意見に賛成である。
- ・ 秋田県の県外からの受入れは、募集定員の5%を上限としているが、どのようにして選抜するのかを知りたい。

〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 入学選抜方法に関わる内容については、公表していない場合もあるため、どこまで確認できるものかは分からないが情報収集を試みる。

〈田代高章 委員長〉

- ・ 全国募集の定員を充足していない原因として考えられることとして、少子化による影響、あるいは様々な進学条件等があるかもしれない。それらを踏まえ慎重に議論したほうが良いと思われる。そのあたりの意見もいただきたい。

(次頁へ続く)

#### 〈高橋清之 委員〉

- ・ 県外からの受入れと県内の「学区外」からの受入れに、矛盾が生じないように併せて考えていかなければならない。
- ・ 県外からの受入れの条件として、アンケート等では部活動に関し肯定的な声が多い。
- ・ 学科における学びの内容や部活動を、特色あるものと捉え受入れの条件として議論を深めていくのかどうかについては、慎重を要するのではないか。私立高校の現状も見ながら検討することが必要ではないか。
- ・ 保護者や生活環境に関わり、他県の成功事例を調査しながら考えていくべきだろう。民間で受入れを募っている地域もあるかもしれない。そうした情報を得ながら議論していく必要があると考える。

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ 高橋委員の意見のとおり、県内の学区外からの受入れとの兼ね合い、そのバランスをどのように取っていくかについては考えていく必要があると思われる。
- ・ 部活動で全国募集をしている私立高校があるが、これを公立高校で認めて良いか。その際、一定の条件を課す必要もあるかもしれない。その場合、どういう基準を想定し、その方向性をどのように報告書としてとりまとめていくのかを意識し、検討していきたい。
- ・ 秋田県の全国募集の枠を「定員の5%」としたことについては、おそらく様々な角度から検討された結果としての数値と思われる。秋田県の現状、市町村別の広がりや学校毎の特色（県外から受け入れている普通科を含む）、実際の受入れ条件、受け入れた生徒の生活環境や学習環境等、隣接県の状況も踏まえた上で、もう少し深い議論をしていきたい。可能であれば事務局で情報収集してほしい。

#### 〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 可能な範囲で情報収集したい。

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ 第1回の議論を踏まえ、事務局は、県外からの受入れの効果や、一定の条件を今後設定していく必要があるかということを示している。これに付加していくもの、不足しているものについて、御意見をいただきたい。

#### 〈阿部 徹 委員〉

- ・ 県外からの志願者を受け入れることの必要性についての議論が必要ではないか。県外からの志願者を受け入れなければいけない理由があるから、受入れ条件等の課題をクリアしなければならないという流れになるのではないか。秋田県で5%の県外の生徒を受け入れることになったのも、その必要性があったからだと思われる。

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ 県外からの志願者の受入れの必要性に関連するものとして、資料 No. 2 「県外からの志願者の受入れのあり方について」の項目2 「地域の将来を担う人材の確保」に記述されている。

#### 〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 第1回の御意見等から、県外からの志願者の受入れの必要性の検討は重要だと考えている。アンケート結果も踏まえた議論が必要である。本県でも県外からの志願者の受入れが必要だという声もあるが、中には現在の制度の範囲内でしっかり取り組みたいという声もあり、それらの意見も踏まえて検討したい。他県の事情については、可能な範囲で確認したい。

#### 〈岩井 昭 教育次長〉

- ・ 本検討会議「設置要綱」の第1に、「新たな県立高等学校再編計画の推進に当たり、ふるさと振興の観点等から学校の魅力づくりを推進する地域の取組を踏まえ、生徒の多様な受入れのあり方について検討する」と謳っている。再編計画をまとめるに当たり、県内9ブロックで開催した

(次頁へ続く)

地域検討会議でいただいた意見を生かすために、検討を進めることにしたものである。検討会議において議論いただいた「あり方の方向性」を受け、県の考え方をまとめ、主体的な姿勢を示していきたい。

- ・ 青森県で県外からの志願者を受け入れていないのは、高校入試の倍率が、地区ごとに平均すると1倍を超えていることも、要因のひとつではないかと思われる。岩手県の場合、私立と公立の定員の合計は中学校卒業予定者数よりも多い状況であり、県立の高校入試の倍率は1倍を切っている状況にある。

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ この検討会議は、県外からの受入れのあり方について様々な意見を基に検討するものである。第1回の会議の時に論点が整理され、今回は「県外からの志願者の受入れのあり方」が論点になっている。その中には、県外からの志願者の受入れを認めるかどうかということも入っている。そして認める場合には、条件の必要性、具体的な内容について議論することとした。
- ・ 資料 No. 1「平成29年度県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関するアンケート」の質問6「県外からの志願を認めることについて、どのように考えますか。」の結果により、環境が整えば認める方向について考えることとなるが、具体的な条件を検討しつつ、条件が整わない場合は、認めなくても良いという議論もできる。そのあたりを深めながら議論したい。
- ・ 受け入れる条件として、生徒に関わること、募集定員に対する割合の他に、地域の実態や地方創生との関連等も条件として考えられ、地域によって必要性の有無について相違があると思われる。つまり、岩手県全体として認める必要があるのかという総論と、一部の地域で認めるのかという各論になってくると思われる。委員の皆様はいかがか。

#### 〈金田一文紀 委員〉

- ・ 方向性として良いと考える。
- ・ 中学校現場では高校を選ぶ生徒に対し、自己実現に向けて必要な学校に進学するべきであるという観点で指導しており、生徒もそのように考えているので、学校の魅力が高校を選ぶ際の大きな要素になる。生徒の自己実現を可能とする教育活動を保証できるように、条件整備という視点で考えていく必要がある。

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ 自己実現の機会にふさわしい学校であるかどうかという観点は、非常に大事になってくる。
- ・ 自分自身の生き方の構築に寄与しうる学校の魅力や特色が必要になってくる。それらが地域創生と絡む場合もある。葛巻町の山村留学による葛巻高校への進学は、葛巻町全体としての取組であり、山村留学した子どもたちが葛巻町の魅力を知ることが、いずれ岩手県への波及効果があると思われる。それが子どもたちの生き方につながれば良いことであり、そのことも考慮し条件等について検討する必要がある。
- ・ 地域あるいは県の事情等もあるが、中学校や高校、生徒の想いを尊重しながら検討していくことが前提である。

#### 〈伊藤晃二 委員〉

- ・ 県外からの受入れについては、受け入れること及び受入れの際は一定の条件を設定することについて、委員全員が異議は無いと思われる。
- ・ 一定条件としては、全ての学校ではなく、定員割れをしている学校、特徴的な部活動をしている学校、地域のバックアップ体制の有無等と思われる。例えば、部活動において地域としてバックアップ体制が整っている自治体もあるので、そうした自治体は前向きであると考えられる。
- ・ 論点をさらに整理し、県外からの受入れのあり方の方向性がまとまり次第、情報提供していただけるとありがたい。

(次頁へ続く)

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ 一定の条件が整えば、県外からの受入れを可能とし、その具体的な条件を詰めていく必要がある。
- ・ 岩手県は地域によって状況が異なることから、各地域の具体的な事情や状況を踏まえて議論していく必要がある。
- ・ 少子化の一層の進行や社会状況の変化へ対応するため、高校再編計画を推進するとともに、県外からの志願者の受入れを可能とすることで、定員割れを一定程度補うことができれば、より良い教育環境の整備がさらに促進されるものと思われる。
- ・ 様々な要因と絡むので、ある程度の条件を設定することについては慎重に議論し、方向性をまとめたい。

#### 〈土川 敦 委員〉

- ・ アンケート結果の環境が整えば、県外から志願者を受け入れたいとする割合が大きかった結果を受け、地域の事情を把握するとともに地域の意見も十分に尊重し、設定する条件の具体的内容について検討していきたい。

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ 本日の資料やアンケート結果の説明も踏まえ、一定の条件が整えば、県外からの受入れを認めるということを今後の検討の前提としたい。
- ・ その上で、「一定の条件」の内容や効果・課題について、成果や課題も踏まえながら、資料No. 2「県外からの志願者の受入れのあり方について」の3「今後の方向性」の(2)「課題を解決し、効果を高めるために、どのようなことが必要か」に掲げられている4点について、ふさわしい情報を踏まえて検討していきたい。
- ・ 「一定数」や「身元引受人」の他、地域の実態や高校の実情、あるいは秋田県や青森県等隣県の状況等も関連してくると思われる。改めてそのあたりを整理して、継続的に審議したいが、いかがか。

#### (異議なしの声)

- ・ 次回の検討会議は、受入れのあり方について、より具体的な条件について議論を深め、その上で通学区域のあり方について議論を進めたいがよろしいか。

#### (異議なしの声)

## 4 その他

#### 〈藤澤良志 高校改革課長〉

- ・ 具体的な日程について、改めて調整し、報告する。

#### 〈田代高章 委員長〉

- ・ 各委員は、各所属機関等で情報を共有し、次回、それぞれ出された意見を報告頂けるとありがたい。
- ・ 高校現場の実態、条件の必要性、また、保護者の考えなど様々な情報・意見をいただきながら次回の検討会議を進めたい。

## 5 閉会